

1人1台端末の活用による実践事例 (小・中学校用)

| | | | |
|---|---|---|-----------|
| 学校名 | 新見市立神代小学校 | 実践者名 | 高瀬 泰子 |
| 教科 | 総合的な学習の時間 | 学年 | 第3・4学年 |
| 活用内容 | 意見交流 | 実践日 | 令和3年11月2日 |
| | | 授業活用段階 (岡山県版) | Stage 3 |
| 単元・内容等 | 「新見市のじまん千屋牛を伝えよう」 学習発表会で千屋牛のよさを伝えるため、プレゼンテーション資料をグループごとに作成しそれをお互いが見合い、よりよい内容になるよう交流する。 | | |
| 活用の概要 (目的・活用場面・使用アプリ名を含む) | | | |
| (1) 本時のめあてをつかむ ・千屋牛の動画を見ることで、ふるさと体験学習やゲストティーチャーのインタビューを思い出し、本時のめあてを確認する。 | |  | |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> めあて 千屋牛のすばらしさを伝えられるようにプレゼンテーション資料を工夫しよう。 </div> | | | |
| (2) 他のグループの動画を視聴しアドバイスを考える。 ・「歴史グループ」「飼育グループ」「販売グループ」が、Keynoteで編集したプレゼンテーション映像に台詞を加えた動画を撮影しておく。互いのグループの動画を視聴し、ワークシートに気付いたことや改善点等を記入する。 | |  | |
| (3) アドバイスを交流する。 ・互いの意見を交流する際、他グループからのアドバイスをワークシートに記入し、資料の修正や改善に生かせるようにする。 ・児童の考えを確認するために、iPadの画面を大型テレビに投影し共有する。 | | | |
| (4) 各グループ別に、協働してプレゼンテーション資料をよりよい内容に改善する。 | |  | |
| (5) 話し合いを振り返る。 | | | |
| 実践者の手ごたえ | | 児童生徒・保護者等の主な反応や声 | |
| Keynote の操作はグループで互いに協力して、教え合いながら作成した。どの児童も興味を持って取り組むことができた。各グループのタブレット端末で、グループごとに視聴したが、大型テレビに映して一斉に視聴すれば、交流で意見がもっと出たと思う。 | | (児童から) 「もっと新見市の事を調べ、発信してみたい。」 (保護者から) 修正した物を大型スクリーンに映し、学習発表会で劇化して発表した。その際、保護者から「地域のよさを児童自身が調べ、積極的に発表する様子が素晴らしかった。」という意見をいただいた。 | |